

児童発達支援ガイドラインによる自己評価について

保護者評価

2025年 1月

にこにこハート

児童発達支援の質の向上と支援内容の適正化を図る為、
児童発達支援に基づき実施した自己評価の結果を公表致します。

回収率：保護者 70% (12名/17名) 回収数/配布数

＜調査からの読み取り・改善点＞

	調査からの読み取り	改善目標・工夫している点
環境・体制整備	環境面、体制整備面においては、好評の意見を多く頂いているが、活動スペースや生活空間のバリアフリー化、職員の配置数についてはホームページの一部写真のみでしか見たことがない為、分からないという意見を頂いた。	にこにこ新聞やホームページ動画を活用しながら児童の過ごし方を公開していく。保護者参加型、又は保護者参観などのイベント企画などを行い、実際に活動スペースなどを見てもらう機会をつくる。また、保護者の方との会話の中で課題点等を伺った際には、職員全員に周知すべくに改善を図る。
適切な支援の提供	子どもと保護者のニーズに合わせた支援計画書の作成、支援計画書に沿った支援が行われているかについては、「はい」の意見が多く、曜日毎の様々な活動を通してできる事が増えたり、自信がついたように見られる。と好評の意見を頂いた。保育所や認定こども園、幼稚園等の交流や、障害のない子どもと活動する機会があるかについては、「わからない」「どちらともいえない」の意見が多く頂いた。	読み聞かせや創作活動、ことばの教室、体操教室、リトミック等の活動を曜日毎に設定し取り組んでいる他、利用児童に合わせて内容の調整等、臨機応変に対応している。保育所や認定こども園、幼稚園等の交流や、障害のない子どもと活動については、現在のところ実施しておらず、検討段階である。
保護者への説明等	日頃から子どもの健康や発達の状況、課題について共通理解ができているかについて、1日の出来事を細かく伝えてもらえる為、様子や出来るようになった事が分かって助かる。と好評のご意見を頂いた。保護者会等の開催により保護者同士の連携が支援されているかについては「いいえ」「分からない」の回答が多く、必要ないという意見も頂く。一方で、保護者同士が顔合わせできる機会が欲しいとの意見を頂いた。	事業所内での個別面談より電話や書面でのやり取りを求める保護者の方が多かった為、ご希望に合わせて実施。保護者同士の交流の機会については、求められている意見と求めている意見が大きく分かれている為、実施出来ない。
非常時等の対応	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているかについて、自宅などで簡単にできることではない為、そのような訓練があり助かる。と好評の意見を頂いた。緊急時対応、防犯、感染対応のマニュアル等を策定し、保護者に周知・説明がされているかについては「いいえ」「分からない」との意見を頂いた。	新型コロナウイルス等、感染症予防対策として、手洗い・換気・消毒等の予防対策を引き続き実施する。避難訓練について、実施前、又は実施した月には新聞などで告知できるように工夫する。
満足度	朝の声掛けで行先を伝えると自分で準備することができるようになった。職員含み、お友達との交友関係を上手に築けている。季節のイベントや外出イベントを楽しみにしている。子どもの成長を感じて満足している。など好評の意見を多く頂いた。	満足度が低下しないよう、サービスの質の維持、向上を図っていく。児童が楽しく安心して過ごせるよう、保護者の方が安心してお子様を預けられるよう、日々支援に励んでいきたい。ニーズに合わせた活動や様々なイベントを今後も計画していく。